

山梨県における外来淡水産プラナリアの生息調査 (平成 27 年度)

堀内雅人 奥寺優行 吉澤一家

Survey of Exotic Freshwater Planarian in Yamanashi Prefecture, Japan (April 2015 - March 2016)

Masato HORIUCHI, Masayuki OKUDERA and Kazuya YOSHIZAWA

キーワード: 外来種、プラナリア、ウズムシ

近年、国内の河川では外来淡水産プラナリア(以下外来プラナリア)の生息が確認されており^{1)~4)}、その生息域は広がっていると考えられる。県内河川においても、外来プラナリアの一種であるアメリカツノウズムシの生息が報告されており^{5,6)}、これまでの調査結果から、甲府盆地内にアメリカツノウズムシが広く生息していることが明らかとなっている。当所では 2009 年度以降外来プラナリアの生息調査を実施しており、ここでは平成 27 年度の調査で新たに確認したアメリカツノウズムシとアメリカナミウズムシの生息地を報告する。

調査方法

今年度は県内 8 河川において調査を行った。現地での調査は水深 30 センチ程度までの川底に礫が存在する地点で行った。生物の採取調査は各地点とも 30 分間程度行った。採取したプラナリアの同定(仮同定)は外部形態および咽頭部の色素により行った^{1,7)}。また、併せて各調査地点の水生生物による水質判定⁸⁾も行った。

結果

調査日、調査地点、外来プラナリア生息確認数および水質階級を表 1 に示した。今年度新たに国中地域の市川三郷町内笛吹川(図 1)、および郡内地域の西桂町内桂川(相模川上流)(図 2)にてアメリカツノウズムシの生息を確認した。笛吹川ではアメリカナミウズムシの生息も確認した。また、桂川ではナミウズムシとアメリカツノウズムシが混生していた。なお、桂川の調査地点では 100 個体を超えるナミウズムシの生息が確認された。笛吹川で採取したアメリカナミウズムシと桂川で採取したアメリカツノウズムシの外部形態写真をそれぞれ図 3、図 4 に示す。

調査地点の水生生物による水質判定は 2 地点が「少しきれいな水」(水質階級)、他の調査地点はすべて「きれいな水」(水質階級)であった。

表1 調査日・調査地点と外来プラナリア生息確認数

調査日	調査地点		北緯・東経		生息確認数		水質階級
	市町名	河川名			アメツノ	アメナミ	
2015/4/6	市川三郷町	三沢川	35.482789	138.455935	0	0	
2015/6/10	甲斐市	亀沢川	35.758323	138.540435	0	0	
2015/6/15	西桂町	桂川(相模川)	35.521281	138.847184	5	0	
2015/7/14	市川三郷町	笛吹川	35.566279	138.489039	12	1	
2015/9/30	山梨市	笛吹川	35.718726	138.706180	0	0	
2015/11/17	南部町	福土川	35.231599	138.473117	0	0	
2015/11/17	南部町	戸栗川	35.286046	138.439955	0	0	
2015/11/17	南部町	船山川	35.295053	138.443109	0	0	
2016/2/10	韮崎市	黒沢川	35.727209	138.441344	0	0	

*北緯・東経は世界測地系(WGS84)DEG形式で示した。

アメツノ:アメリカツノウズムシ

アメナミ:アメリカナミウズムシ



図1 笛吹川生息地点(市川三郷町)



図2 桂川生息地点(西桂町)



図3 笛吹川採取アメリカナミウズムシ

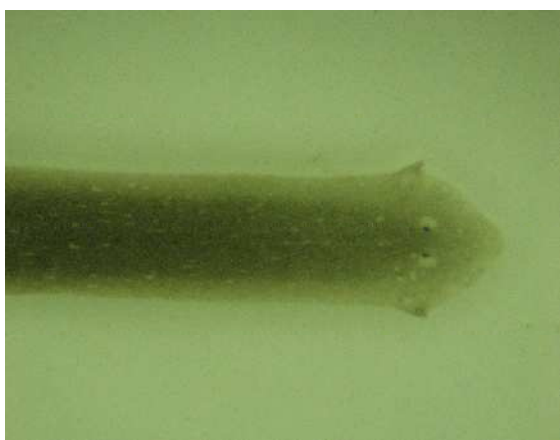


図4 桂川採取アメリカツノウズムシ

考 察

今回の調査で新たな生息地が確認されたことで、本県におけるアメリカツノウズムシの生息域が拡大していることが示された。また、新たに笛吹川でアメリカナミウズムシの生息が確認された。この外来プラナリアの県内での生息情報は、リニア中央新幹線の環境影響評価書⁹⁾に記載がある。ただし生息地点の詳細は記されていない。今回生息を確認した地点では、アメリカナミウズムシはアメリカツノウズムシと比較して生息確認数は少なかった。アメリカナミウズムシは無性生殖(分裂)により増殖し、アメリカツノウズムシは有性生殖により増殖する⁷⁾。今後この生息地点においてこの2種の外来プラナリア生息数の推移をモニタリングする予定である。

桂川の生息地では、在来種のナミウズムシと外来種のアメリカツノウズムシの混生を確認した。調査時のアメリカツノウズムシ生息確認数は、ナミウズムシと比較して少なかった。この調査地点は、夏季でも水温が20℃を超えることは少ない¹⁰⁾。これは、流域に存在する湧水が流入しているためと考えられ、ナミウズムシにとっては良好な生息環境と考えられる。過去の県内河川の調査では、アメリカツノウズムシの生息地の水質は、水

生生物による水質判定で「きたない水」(水質階級 Ⅱ)と「少しきれいな水」(水質階級 Ⅲ)であった⁶⁾。今回生息を確認した桂川の調査地点は「きれいな水」(水質階級 Ⅳ)であり、この地点のようにナミウズムシにとって良好と考えられる環境において、アメリカツノウズムシの生息数が今後どのように推移していくのかモニタリングにより監視していきたい。

韮崎市内を流下する黒沢川では、今回の調査地点では外来プラナリアの生息は確認されなかった。しかし、今回の調査地点より約4km下流の流末地点では、アメリカツノウズムシの生息が確認されており⁶⁾、今後生息範囲の調査を予定している。

まとめ

笛吹川および桂川(相模川上流)でアメリカツノウズムシの生息を確認した。笛吹川ではアメリカナミウズムシの生息も確認した。笛吹川の調査地点においてアメリカナミウズムシの生息確認数はアメリカツノウズムシと比較して少なかった。桂川では在来種のナミウズムシとアメリカツノウズムシが混生していた。桂川の調査地点においてアメリカツノウズムシの生息確認数はナミウズムシと比較して少なかった。

文 献

- 1) 川勝正治ら：プラナリア類の外来種，陸水学雑誌，**68**，461-469 (2007)
- 2) 竹門康弘：外来淡水産底生無脊椎動物の侵入実態と防除に向けた課題．陸水学雑誌，**68**，445-447(2007)
- 3) 石井克彦：荒川水系から発見されたプラナリアの外来種，埼玉県立川博紀要，**13**，33-36(2013)
- 4) 西浩孝：豊橋市の梅田川で外来種のプラナリアを確認，豊橋市立自然史博物館研報，**23**，27-28(2013)
- 5) 堀内雅人：山梨県における外来プラナリアの生息確認，山梨衛環研年報，**54**，86-87(2010)
- 6) 堀内雅人：山梨県における外来淡水プラナリアの分布状況，第46回日本水環境学会講演集，p567(2012)
- 7) 川勝正治ら：日本の平地水域のプラナリア類-在来種と外来種の手引き-
<http://victoriver.com/Documents/mw.j.pdf> (最終検索日：2016年3月7日)
- 8) 環境省水・大気環境局，国土交通省水管理・国土保全局編：川の生きものを調べよう(2012)
- 9) 中央新幹線(東京都・名古屋市間)環境影響評価書資料編(山梨県)，平成26年8月(東海旅客鉄道株式会社)
- 10) 山梨県：公共用水域及び地下水の水質測定結果，各年度